

追悼名指揮者 **テイトとビエロフラーヴェクを偲んで**

プログラム

去る5月31日にチェコの名指揮者、イルジー・ビエロフラーヴェクが71歳で、6月2日にはイギリスの名指揮者、ジェフリー・テイトが74歳で亡くなりました。今日はこの二人の名指揮者を偲んで、それぞれのライブ音源による名演奏をお届けします。**イルジー・ビエロフラーヴェク**は1946年2月24日、チェコのプラハ生まれ。父からピアノの手ほどきを受け、14歳でプラハ音楽院に入学、1967年21歳で指揮者デビュー。1968年にチェリビダッケの下で研鑽を積み、1970年から1973年までチェコ・フィルの副指揮者としてヴァーツラフ・ノイマンのアシスタントを務め、1973年にブルノ国立フィルの常任指揮者、1977年にはプラハ交響楽団の首席指揮者を経て、1990年にチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督就任。1992年に一度辞任しますが、2012年から再びチェコ・フィルの首席指揮者に返り咲き、亡くなるまでその地位にありました。この間2006年から2013年まではイギリスのBBC交響楽団の首席指揮者も務めています。ビエロフラーヴェクはクーベリックやノイマンといった同郷の名指揮者に比べると地味で熱狂的に受け入れられる事も少ない指揮者でしたが、常に最上の音を引き出す術と瑞々しいまでにオーケストラを歌わせる術は一流でした。チェコ・フィルとの黄金期を期待していた矢先での急逝は非常に残念です。**ジェフリー・テイト**は1943年4月28日、イギリスのイングランド、ソールズベリ生まれ。大学では医学を専攻するも20代になって指揮者を志し、1970年からロンドン・オペラ・センターに学び、コヴェント・ガーデン王立歌劇場で合唱指揮者として経験を積んだ後、ショルティ、コリン・デイヴィス、ケンペらの助手を務め、カラヤン、ブーレーズ、レヴァインの下で研鑽を積みました。1979年にニューヨークのメトロポリタン歌劇場、1982年にはコヴェント・ガーデン王立歌劇場デビュー、1985年から2000年までイギリス室内管弦楽団の初代首席指揮者。1991年から1995年までロッテルダム・フィルの首席指揮者、2008年から2017年までハンブルク交響楽団の首席指揮者を務めました。テイトは先天性障害のため椅子に座って指揮をするというハンディを背負いながら、その奏でる音楽は常に生き生きとした明快なもので、スケールの大きい劇的な表現も魅力に溢れていました。早すぎる死が惜しまれます。今日は名曲の数々をお楽しみ下さい。(中川)

ウォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791):
ピアノ協奏曲第22番変ロ長調K.482~抜粋

内田光子 (P)

ジェフリー・テイト指揮ウィーン交響楽団
(1986.7.29 プレゲンツ祝祭劇場でのLive)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827):
交響曲第7番イ長調op.92~第1楽章、第4楽章

ジェフリー・テイト指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1987.2.4 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

リヒャルト・シュトラウス (1864~1949):
歌曲“なつかしい面影”op.48-1 / 歌曲“献身”op.10-1

ルネ・フレミング (S)

イルジー・ビエロフラーヴェク指揮BBC交響楽団
(2010.9.8 ロンドン、ロイヤルアルバートホールでのLive)

*** 休憩 ***

レオシュ・ヤナーチェク (1854~1928):
シンフォニエッタ ~ 1. ファンファーレ 3. 修道院 4. 街路 5. フル / 旧市庁舎 (2. 城塞)

イルジー・ビエロフラーヴェク指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
(1992.5.14 プラハ、ドヴォルザークホールでのLive)

アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904):
交響曲第9番ホ短調op.95“新世界から” ~ 第1楽章、第2楽章から、第4楽章

スラヴ舞曲第10番ホ短調op.72-2

イルジー・ビエロフラーヴェク指揮BBC交響楽団
(2010.5.12 NHKホールでのLive)